
アフリカ進出日系企業実態調査 (2016年度調査)

2016年12月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中東アフリカ課

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

調査結果のポイント

アフリカ市場への期待、続く

5割超の企業が事業拡大に意欲、市場の成長性が魅力

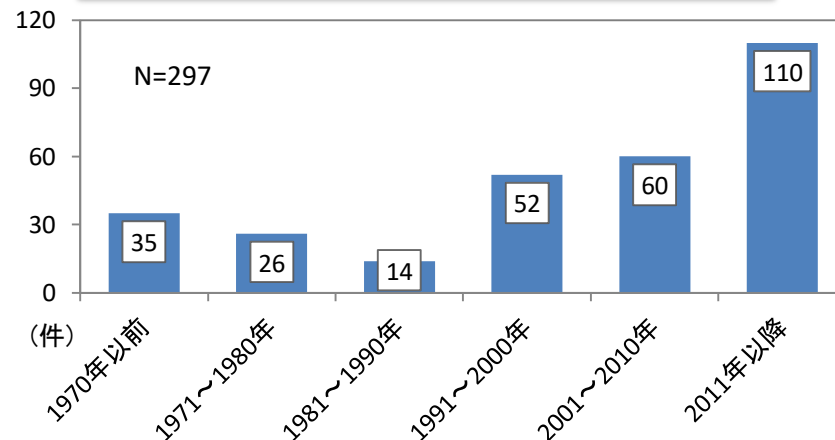
- ☆5割超が事業拡大を検討、成長性と高い潜在力が最大の魅力（p. 4）
- ☆黒字化率は上昇、業績改善を見込む企業の割合も増加（p. 5-7）
- ☆依然として高い投資リスク
 - 行政手続きの煩雑さ、政情不安、為替の変動など（p. 12、13）
- ☆今後の注目国はケニア、ナイジェリア、南アフリカ共和国（p. 17、18）

調査概要および回答企業プロフィール

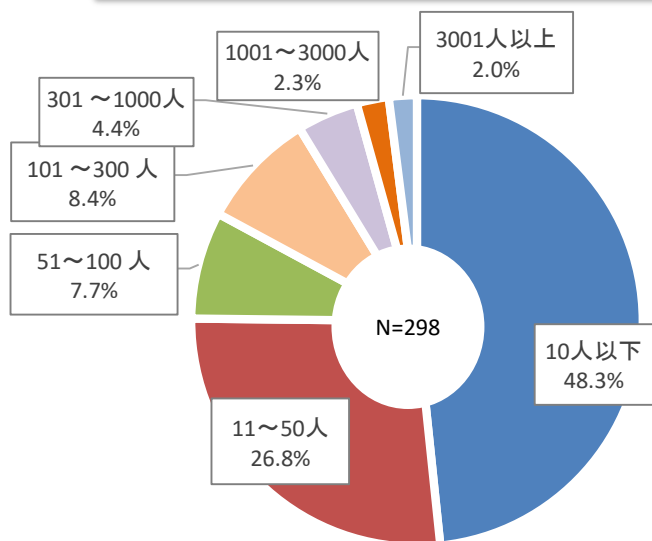
「2016年度 アフリカ進出日系企業実態調査」

- ◆ 実施時期：2016年9月29日～11月11日
- ◆ 有効回答率：80.2%
(対象国24カ国、回答企業数 299社/373社中)
- ◆ 調査対象：在アフリカの日系企業
※日系企業の出資があれば出資比率や日本人駐在員の有無に関わりなく対象。

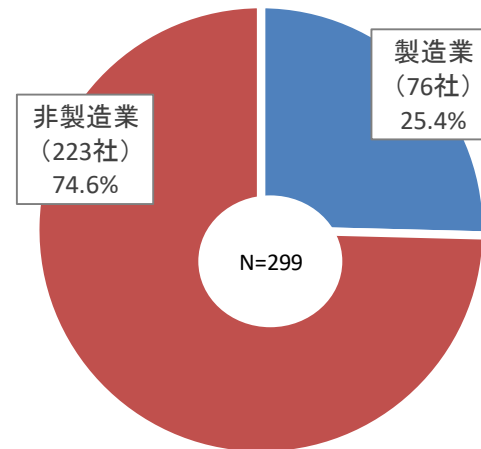
進出年：2011年以降の進出企業が最多



従業員数：小規模事業所が多数

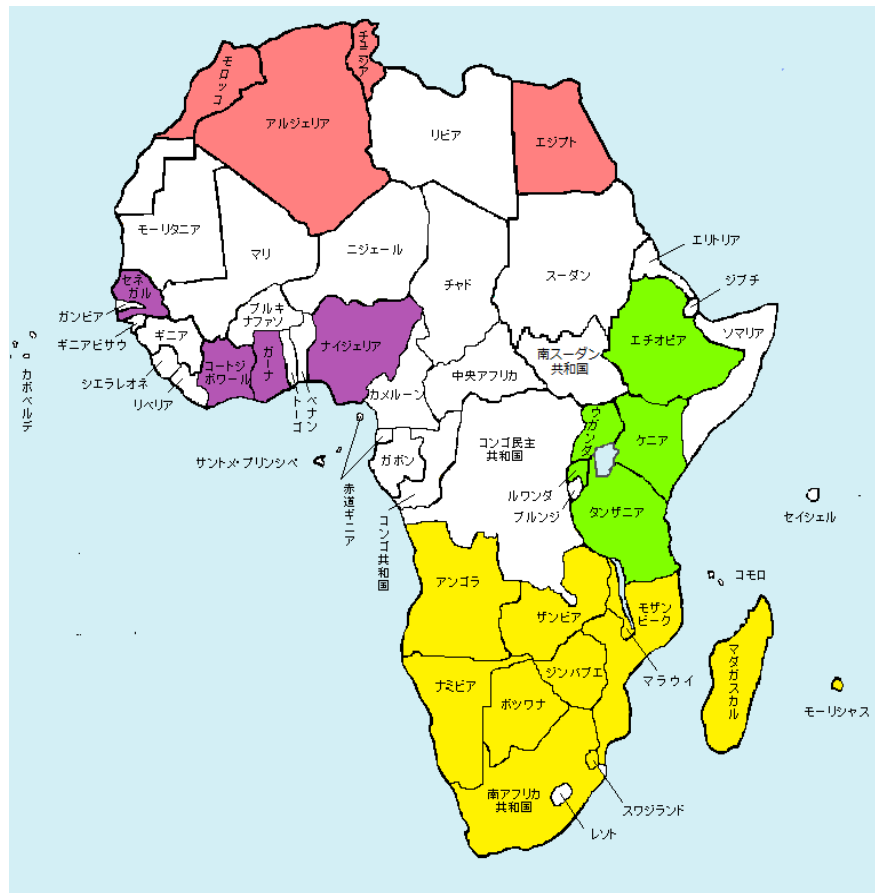


業種：回答企業の4分の1が製造業



調査対象： 対象国は24カ国、回答企業数は299社

	調査対象 企業数	調査企業数		有効 回答率
		有効回答 (うち製造業)	構成比	
総数	373	299 (76)	100.0	80.2
北部アフリカ	92	74 (20)	24.7	80.4
エジプト	47	36 (10)	12.0	76.6
モロッコ	22	21 (5)	7.0	95.5
チュニジア	12	6 (3)	2.0	50.0
アルジェリア	11	11 (2)	3.7	100.0
西部アフリカ	41	41 (9)	13.7	100.0
ナイジェリア	22	22 (6)	7.4	100.0
ガーナ	12	12 (2)	4.0	100.0
コートジボワール	5	5 (1)	1.7	100.0
セネガル	2	2 (0)	0.7	100.0
東部アフリカ	63	56 (12)	18.7	88.9
ケニア	38	36 (5)	12.0	94.7
タンザニア	11	8 (2)	2.7	72.7
エチオピア	8	7 (2)	2.3	87.5
ウガンダ	3	3 (1)	1.0	100.0
ルワンダ	3	2 (2)	0.7	66.7
南部アフリカ	177	128 (35)	42.8	72.3
南アフリカ共和国	128	87 (26)	29.1	68.0
モザンビーク	17	16 (5)	5.4	94.1
ザンビア	10	7 (2)	2.3	70.0
アンゴラ	9	8 (0)	2.7	88.9
マダガスカル	4	4 (0)	1.3	80.0
モーリシャス	2	2 (0)	0.7	100.0
ボツワナ	2	1 (0)	0.3	50.0
マラウイ	2	1 (0)	0.3	50.0
スワジランド	1	1 (1)	0.3	100.0
ナミビア	1	1 (1)	0.3	100.0
ジンバブエ	1	0 (0)	0.0	0.0



(注1) 色が付いている国が対象国。

(注2) 赤：北アフリカ、紫：西・中部アフリカ、緑：東アフリカ、黄：南部アフリカ

(注1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数第2位を四捨五入した。

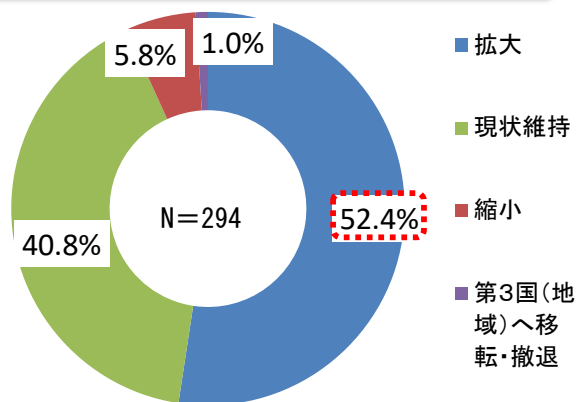
そのため、各回答の割合の合計が100%にならないものもある。

(注2) 報告書内に記してある「N」は有効回答数(母数)。

今後の事業展開： 5割超の企業が事業拡大に意欲

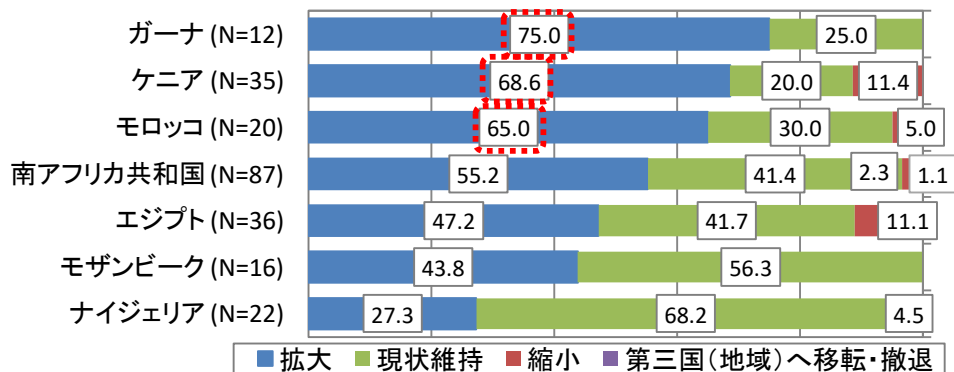
今後1～2年の事業拡大を視野に入れる回答企業は52.4%と半数を超えた。拡大する理由では、「売上の増加」のほか「成長性、潜在力の高さ」が上位を占めた。国別ではガーナ、ケニア、モロッコなどで「拡大」の比率が高かった。

今後1～2年の事業展開の方向性



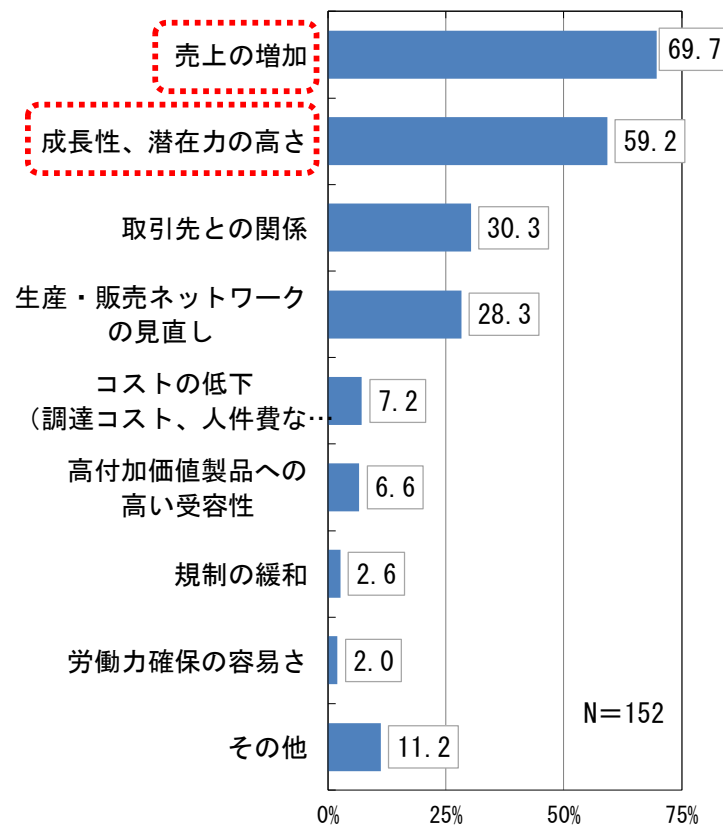
国別

(%) 0 20 40 60 80 100



(注)回答企業数が10以下の国は除く。

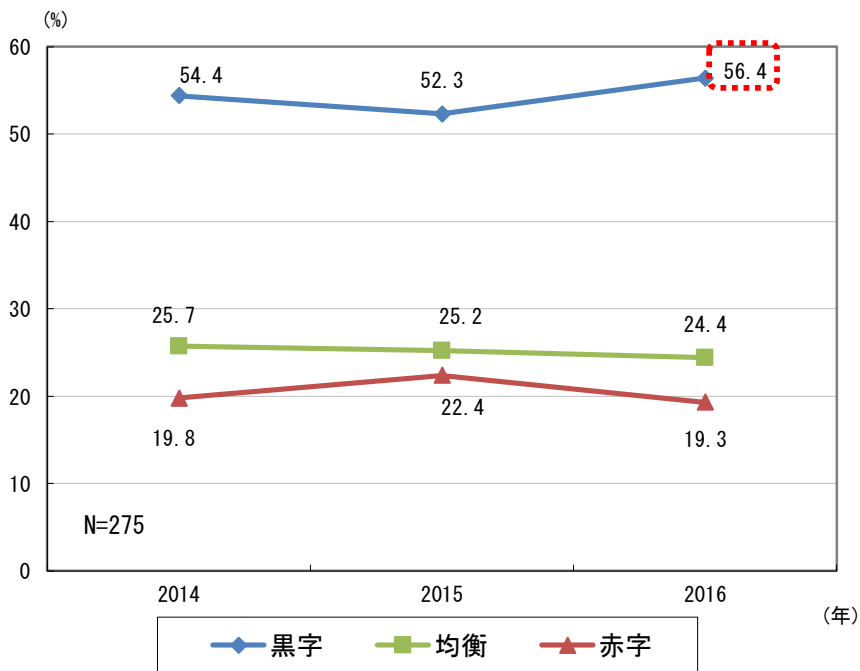
事業拡大の理由 (複数回答)



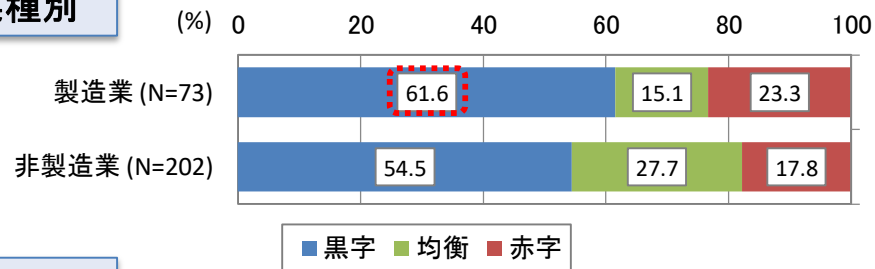
営業利益見込み： 黒字比率は56.4% -南アフリカ共和国、製造業を中心に好調

2016年は回答企業の56.4%が営業利益の「黒字」を見込む。前年から4.1ポイント上昇した。業種別では自動車・同部品を中心とする製造業で黒字比率が61.6%と高く国別ではガーナ（70.0%）、南アフリカ共和国（69.9%）で平均を大きく上回った。

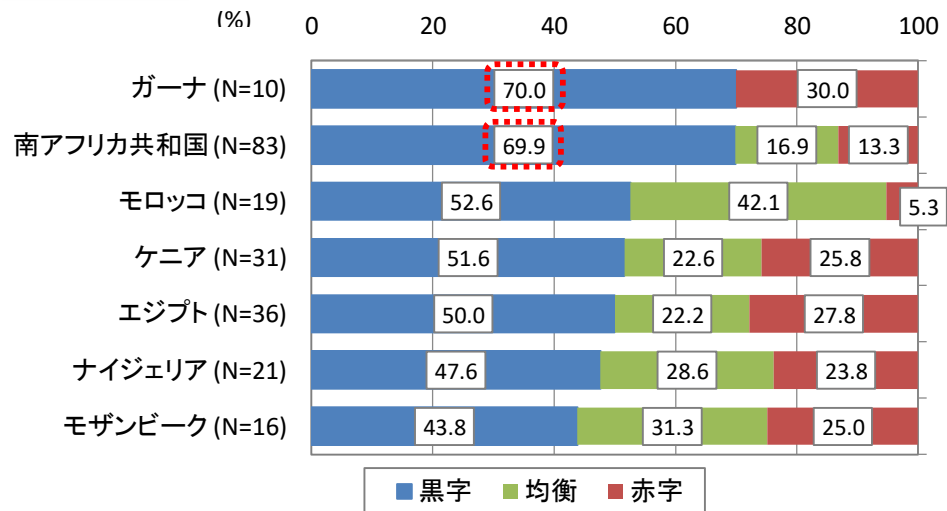
営業利益の推移



業種別



国別

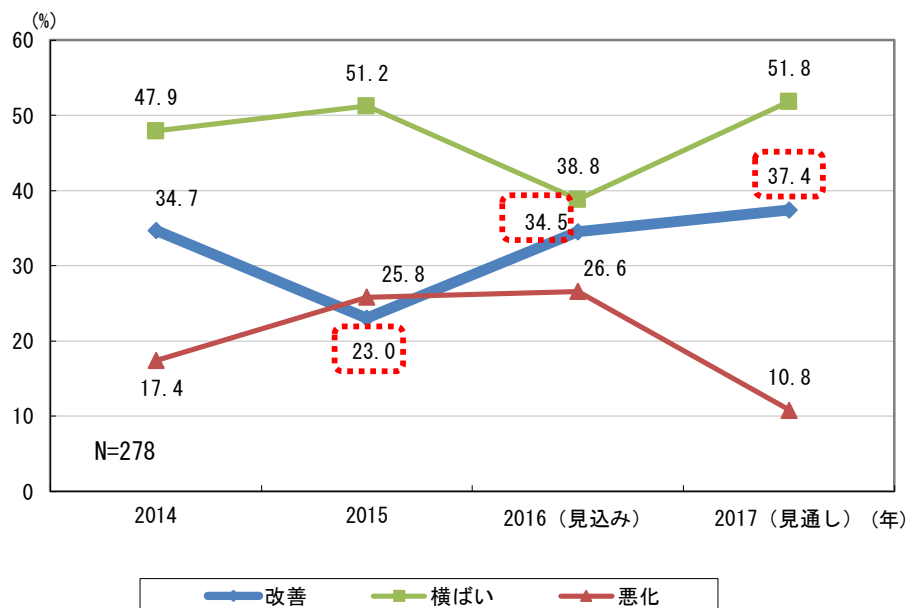


（注）回答企業数が10以下の国は除く。

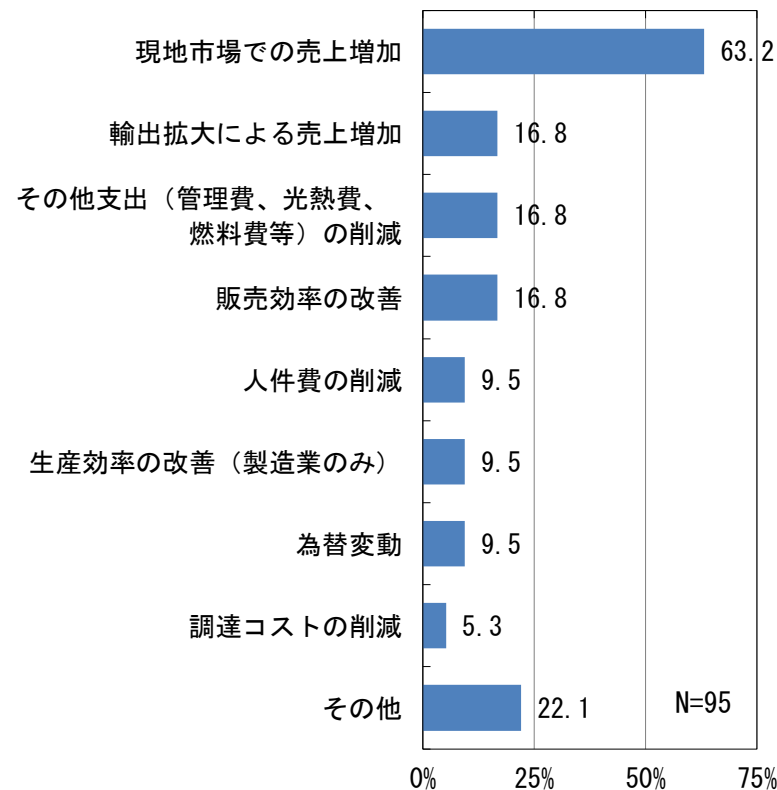
営業利益見込み(前年比)①: 「改善」が前年より増加

2016年の営業利益見込みが「改善する」と回答した割合は34.5%で、前年から11.5ポイント増加した。改善の理由では、「現地市場での売上増加」(63.2%)が上位を占めた。2017年見通しは「改善する」の割合が37.4%とさらに増加した。

営業利益見込みの推移



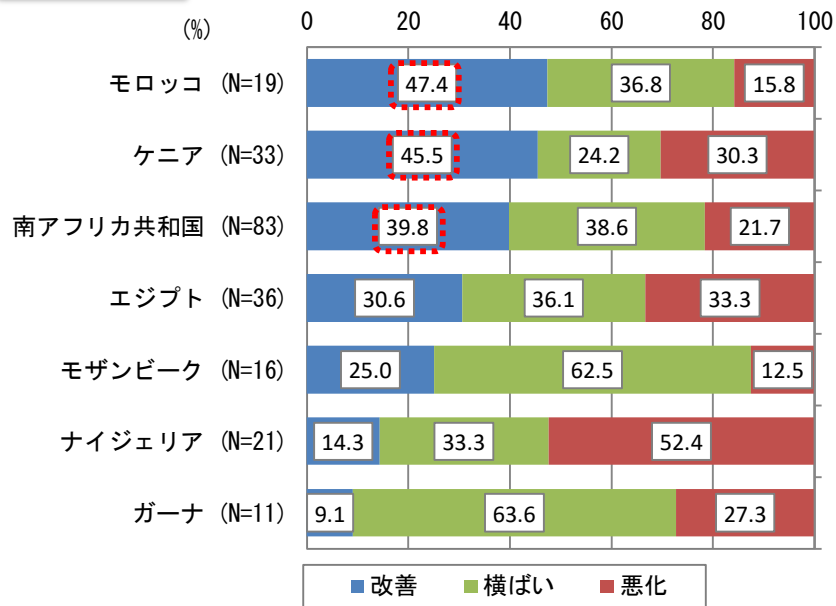
2016年の営業利益見込みが改善する理由 (複数回答)



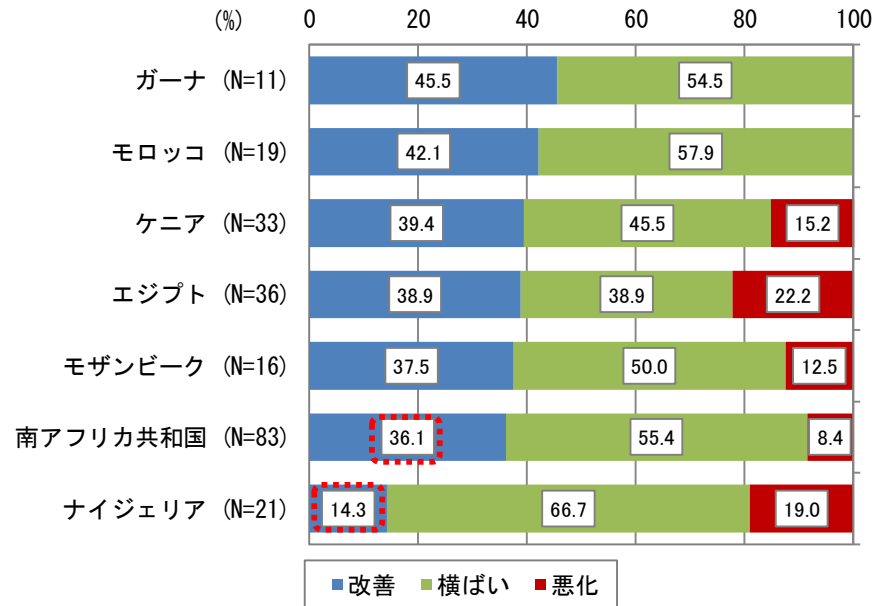
営業利益見込み(前年比)②： 国別・業種別データ

2016年の営業利益見込み

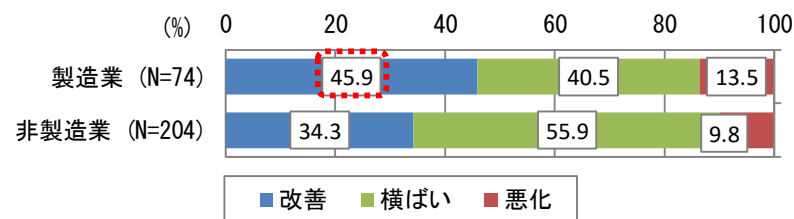
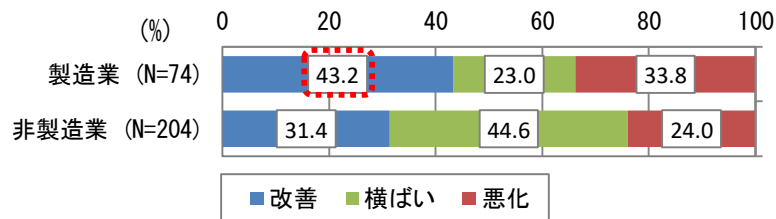
国別



2017年の営業利益見通し



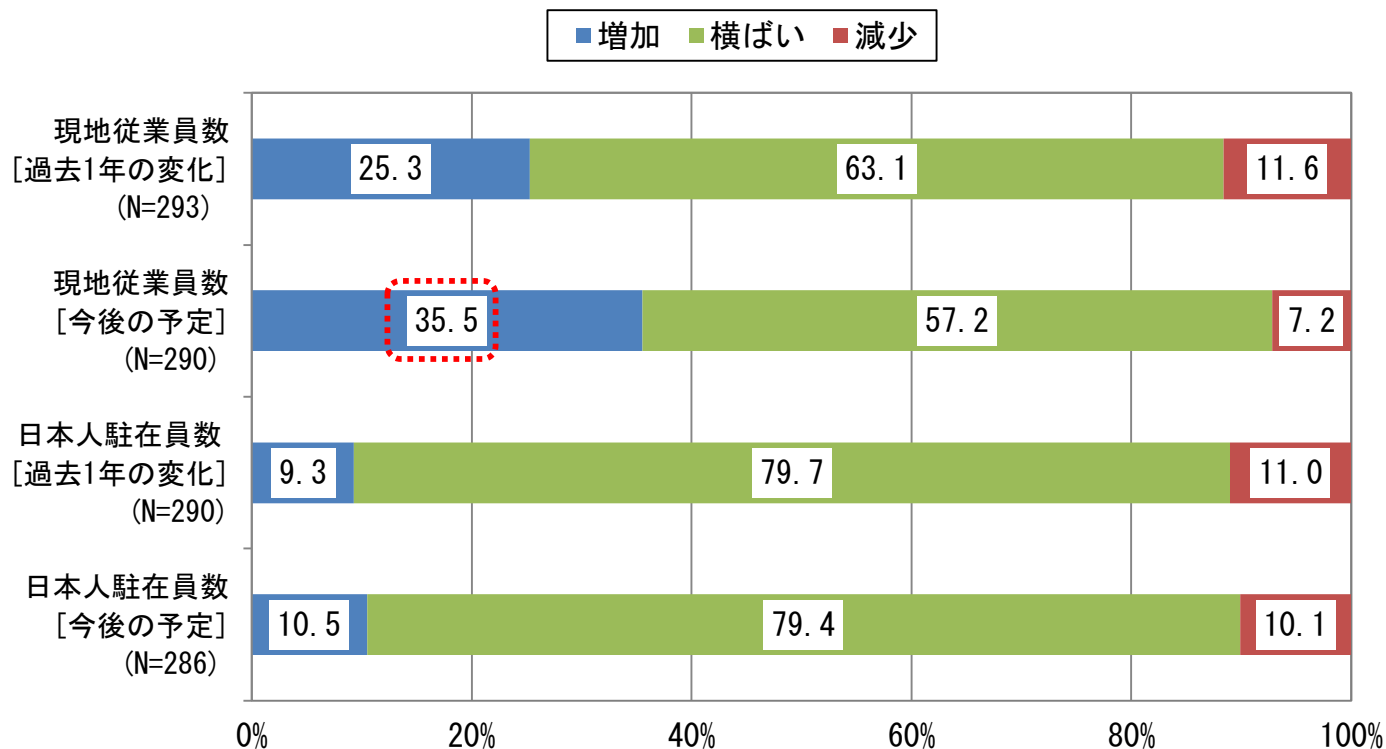
業種別



従業員数①： 現地従業員の増加を予定する企業は3割超

過去1年間に現地従業員を「増加」と回答した企業は25.3%だった。今後については35.5%の企業が「増加」を予定している。日本人駐在員については79.7%の企業が過去1年間で「横ばい」と回答した。今後の予定でも、79.4%の企業が「横ばい」と回答した。

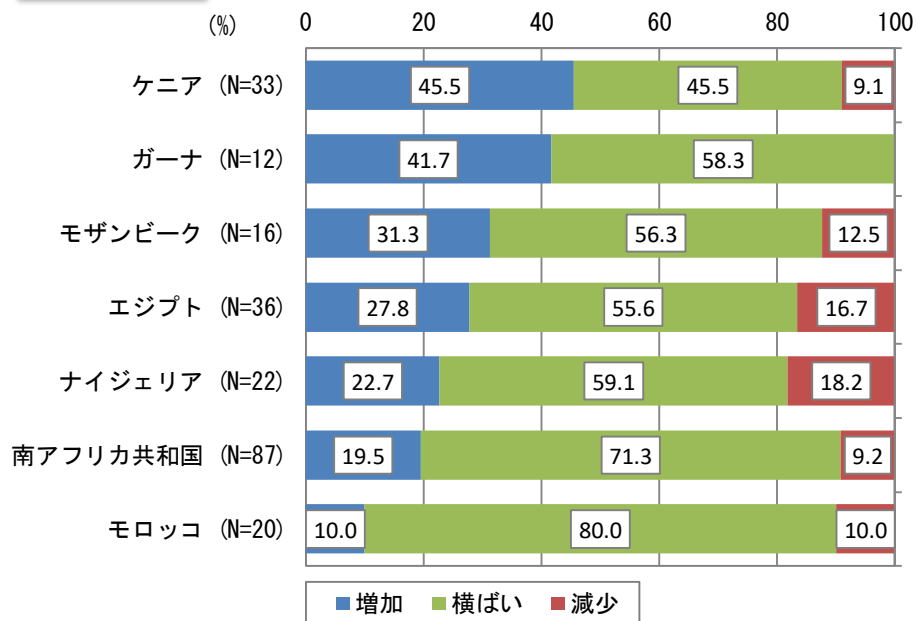
現地従業員数・日本人駐在員数の変化



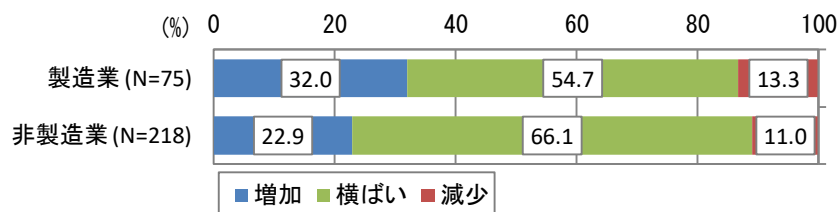
従業員数②： 国別・業種別データ(現地従業員)

現地従業員：過去一年間の変化

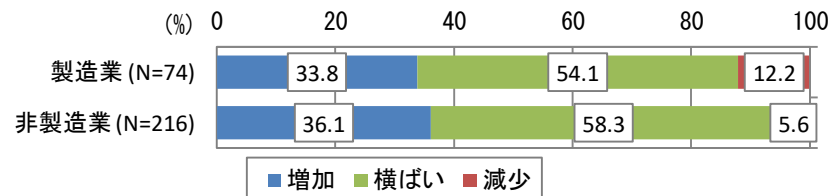
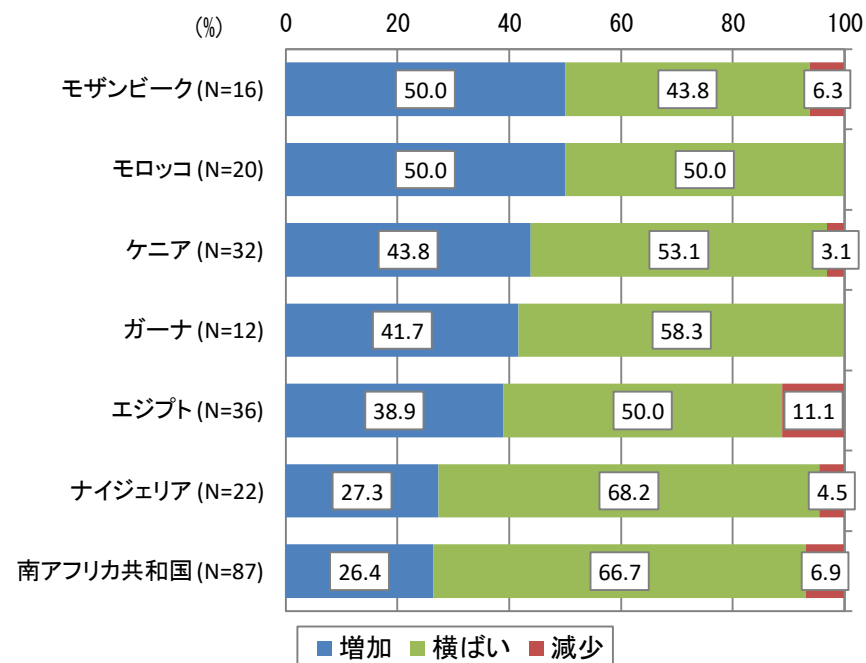
国別



業種別

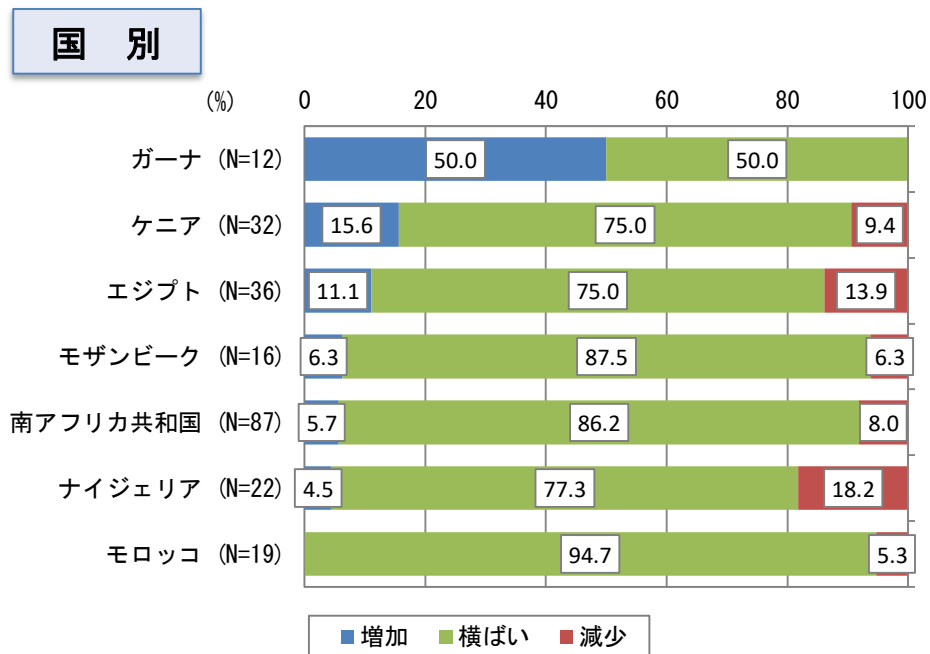


現地従業員：今後の予定

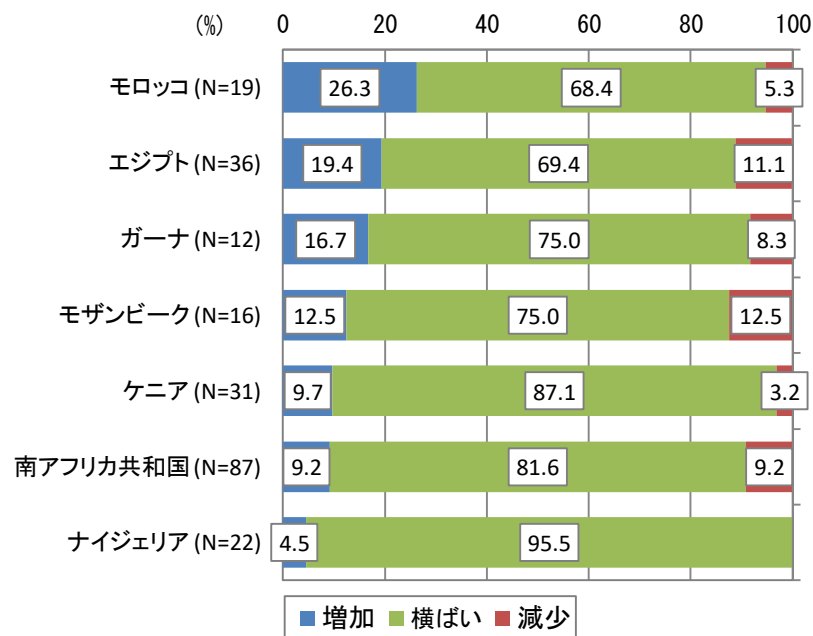


従業員数③： 国別・業種別データ(日本人駐在員)

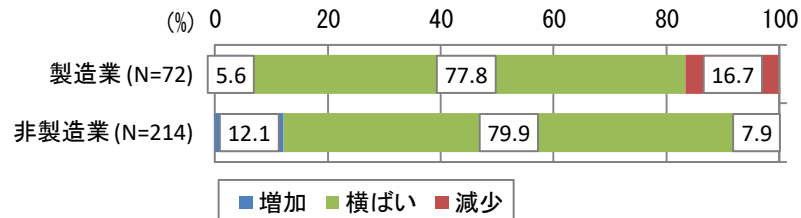
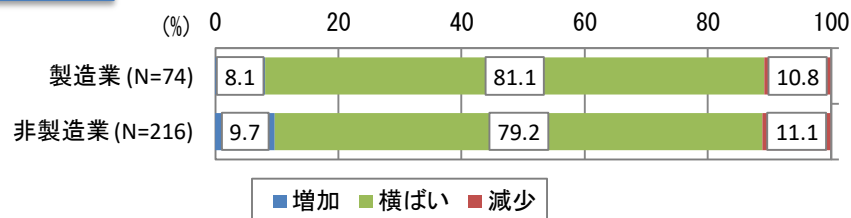
日本人駐在員：過去一年間の変化



日本人駐在員：今後の予定



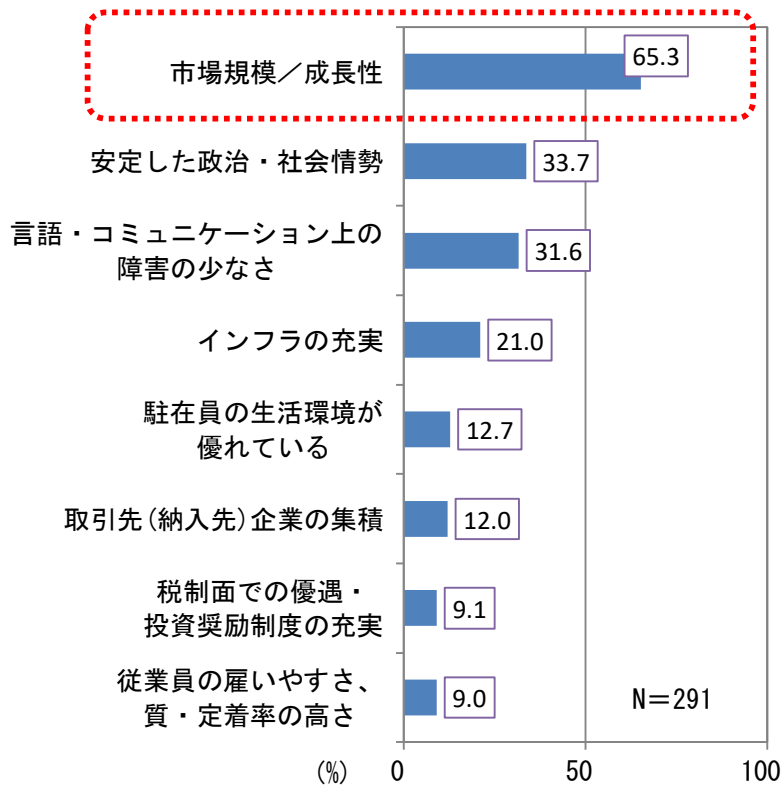
業種別



アフリカ投資のメリット：「市場規模と成長性」が最大の魅力

投資環境面でのメリットとしては「市場規模・市場の成長性」（65.3%）が上位で最大の魅力となった。同項目を国別で見るとナイジェリア（90.0%）、エジプト（86.1%）、ケニア（75.8%）で割合が多かった。「安定した政治・社会情勢」を選んだ企業の割合はガーナで100%、モロッコで90.5%と高かった。

投資環境面でのメリット（複数回答）



国別

	市場規模／成長性 (%)	安定した政治・社会情勢	言語・コミュニケーション上の障害の少なさ	インフラの充実	駐在員の生活環境が優れている	取引先（納入先）企業の集積	税制面での優遇・投資奨励制度の充実	従業員の雇いやすさ、質・定着率の高さ
全体 (N=291)	65.3	33.7	31.6	21.0	12.7	12.0	9.1	9.0
ナイジェリア (N=20)	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	2.5	0.0
エジプト (N=36)	86.1	16.7	16.7	13.9	2.8	8.3	9.7	9.0
ケニア (N=33)	75.8	27.3	69.7	18.2	6.1	12.1	0.0	5.3
南アフリカ共和国 (N=87)	65.5	32.2	43.7	31.0	24.1	17.2	11.5	9.2
モロッコ (N=21)	52.4	90.5	9.5	28.6	19.0	9.5	7.2	9.5
モザンビーク (N=16)	50.0	6.3	0.0	6.3	6.3	12.5	6.3	4.7
ガーナ (N=12)	33.3	100.0	75.0	8.3	25.0	0.0	12.5	6.3

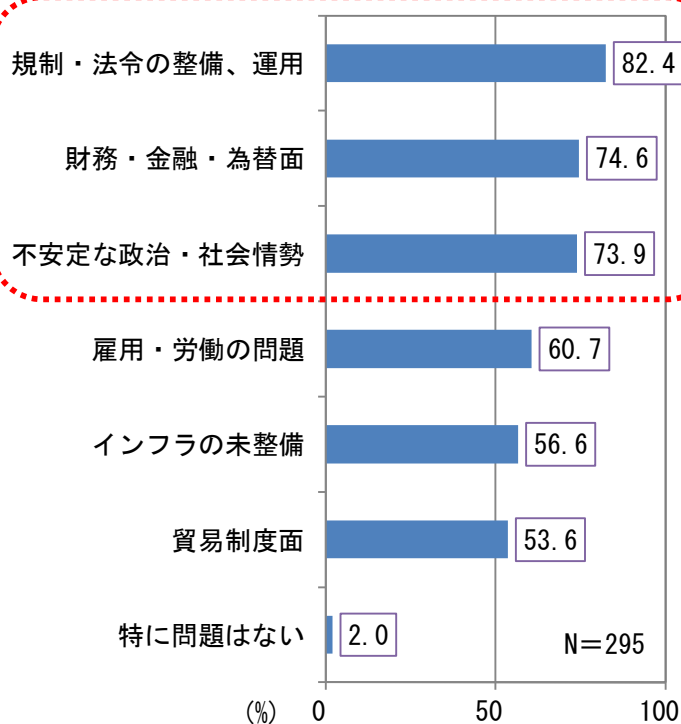
(注1) 青い影は全体（平均）の比率を超えるもの。

(注2) 回答企業数が10以下の国は除く。

アフリカ投資のリスク①： 依然として厳しい投資環境-法整備・運用が最大の課題

投資環境面でのリスクとしては、「規制・法令の整備、運用」（82.4%）、「財務・金融・為替面」（74.6%）、「不安定な政治・社会情勢」（73.9%）が上位を占めた。具体的には行政手続きの煩雑さ、不安定な為替、治安の悪化が指摘された。

投資環境面でのリスク（複数回答）



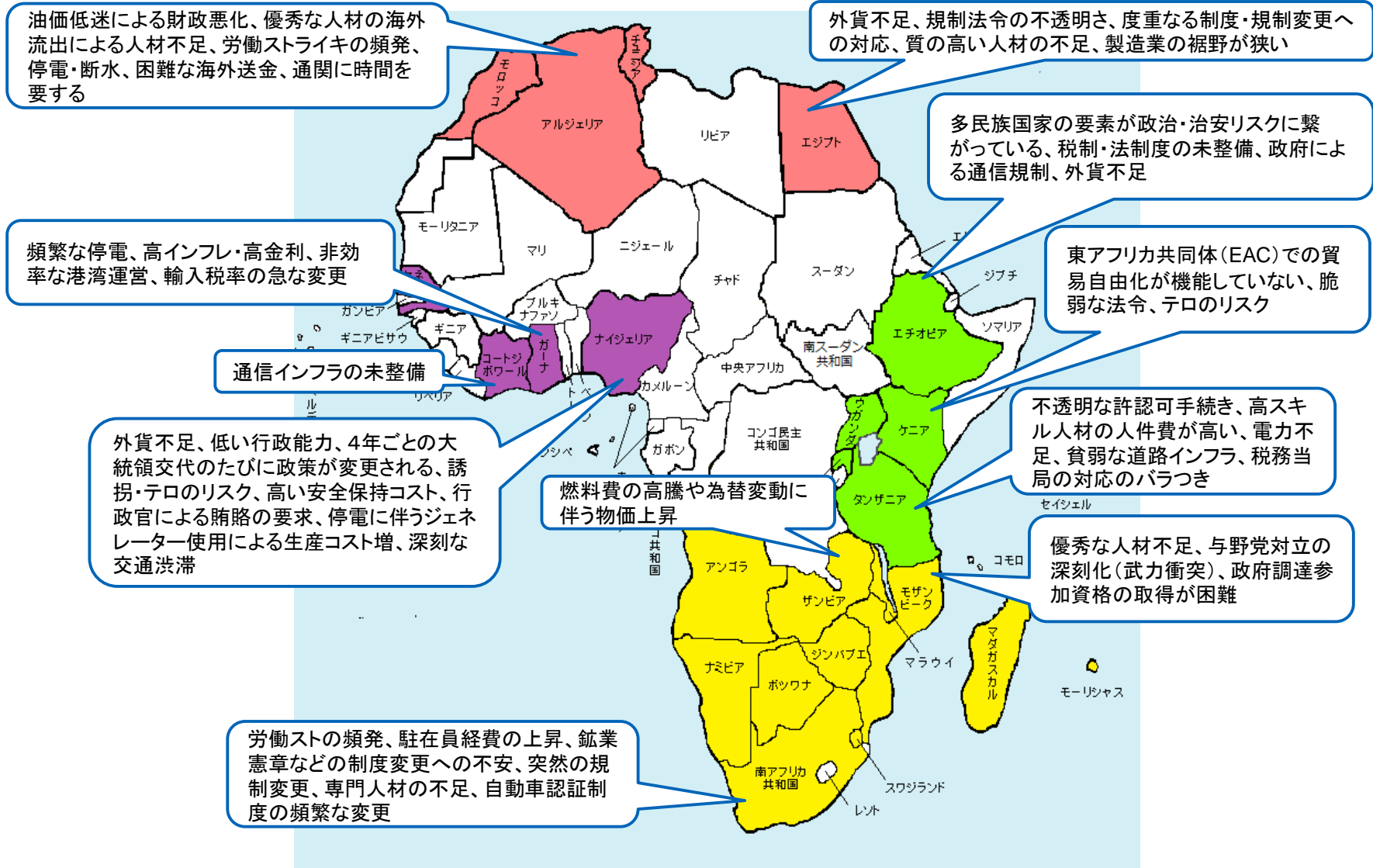
国別

(%)	規制・法令の整備運用	財務・金融・為替面	不安定な政治・社会情勢	雇用・労働の問題	インフラの未整備	貿易制度面	特に問題はない
全体 (N=295)	82.4	74.6	73.9	60.7	56.6	53.6	2.0
ナイジェリア(N=21)	95.2	90.5	95.2	57.1	95.2	71.4	4.8
エジプト(N=36)	94.4	94.4	86.1	61.1	38.9	55.6	2.8
モザンビーク(N=16)	93.8	87.5	87.5	62.5	75.0	56.3	-
ケニア(N=36)	80.6	41.7	75.0	58.3	41.7	41.7	-
モロッコ(N=20)	80.0	40.0	35.0	50.0	15.0	45.0	5.0
南アフリカ共和国(N=87)	77.0	73.6	86.2	74.7	54.0	39.1	-
ガーナ(N=12)	75.0	83.3	8.3	25.0	75.0	66.7	8.3

(注1) 赤い影は全体(平均)の比率を超えるもの。

(注2) 回答企業数が10以下の国は除く。

アフリカ投資のリスク②：（参考）日系企業のコメント

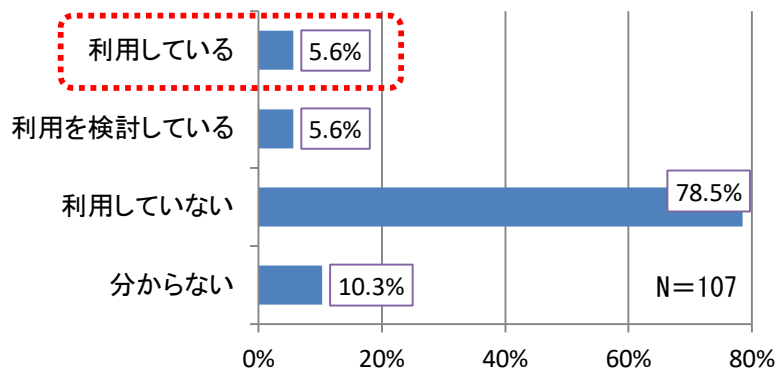


FTA・関税同盟の利用①： FTA利用企業は少ないながらも着実に増加

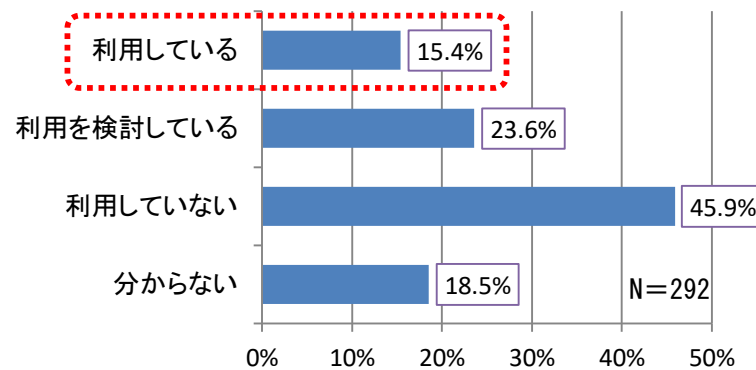
FTA・関税同盟を利用している企業は15.4%（292社中、45社）で、2007年度調査の5.6%（107社中、6社）から大幅に増加した。今後の利用を検討している企業は23.6%（69社）だった。利用しているFTAは、「南部アフリカ開発共同体（SADC）」、「欧州自由貿易連合（EFTA）・南部アフリカ関税同盟（SACU）自由貿易協定」、「東南部アフリカ共同市場（COMESA）」が上位を占めた。

FTA・関税同盟の利用状況（複数回答）

<参考：2007年度調査>



<2016年度調査>



利用しているFTA・関税同盟（複数回答）

- ・南部アフリカ開発共同体(SADC) (22社)
- ・欧州自由貿易連合(EFTA)・SACU自由貿易協定(11社)
- ・東南部アフリカ共同市場(COMESA) (10社)
- ・EU・SADC自由貿易協定(8社)
- ・地中海諸国(エジプト・チュニジア・アルジェリア・モロッコ等とEUの連携協定(8社)

利用を検討しているFTA・関税同盟（複数回答）

- ・南部アフリカ開発共同体(SADC) (30社)
- ・東アフリカ共同体関税同盟(EAC) (21社)
- ・東南部アフリカ共同市場(COMESA) (20社)
- ・西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS) (14社)
- ・欧州自由貿易連合(EFTA)・SACU自由貿易協定(10社)
- ・大アラブ自由貿易地域(GAFTA) (9社)

FTA・関税同盟の利用②： 国別・業種別データ

国別

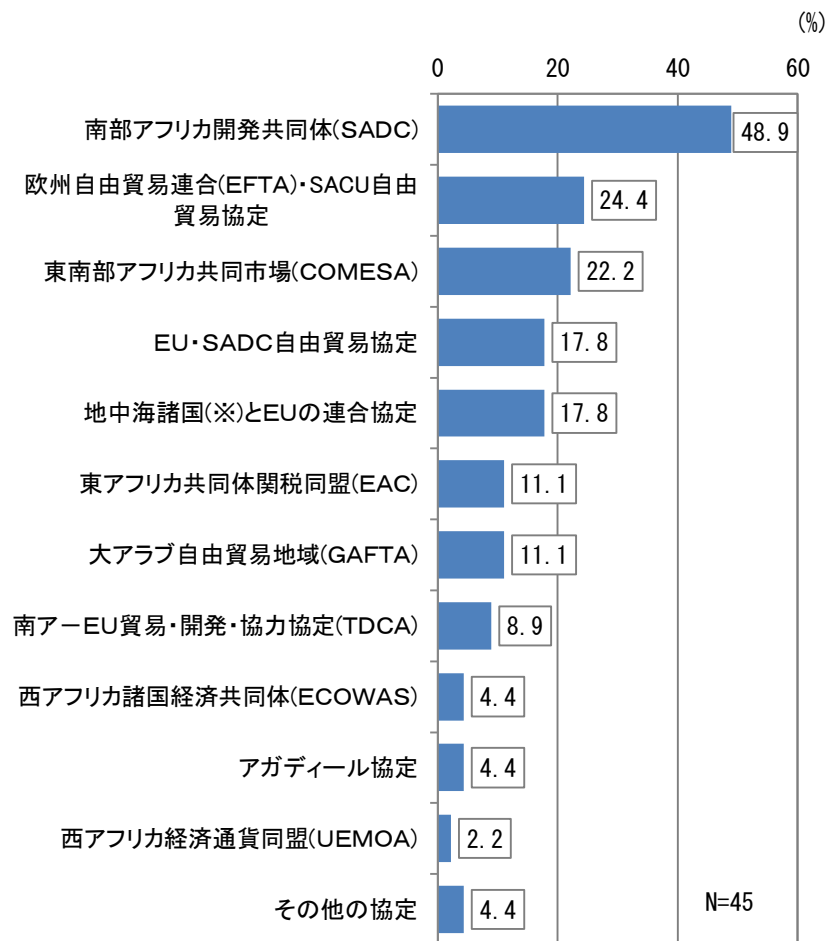
(%)	利用している	利用を検討している	利用していない	分からない
全体(292)	15.4	23.6	45.9	18.5
南アフリカ共和国 (N=87)	23.0	16.1	42.5	23.0
モロッコ (N=19)	21.1	26.3	15.8	42.1
エジプト (N=36)	13.9	33.3	52.8	8.3
モザンビーク (N=16)	6.3	25.0	18.8	50.0
ケニア (N=34)	5.9	35.3	55.9	2.9
ナイジェリア (N=22)	0.0	31.8	45.5	22.7
ガーナ (N=12)	0.0	16.7	75.0	8.3

業種別

(%)	利用している	利用を検討している	利用していない	分からない
製造業 (N=76)	31.6	26.3	28.9	21.1
非製造業 (N=216)	9.7	22.7	51.9	17.6

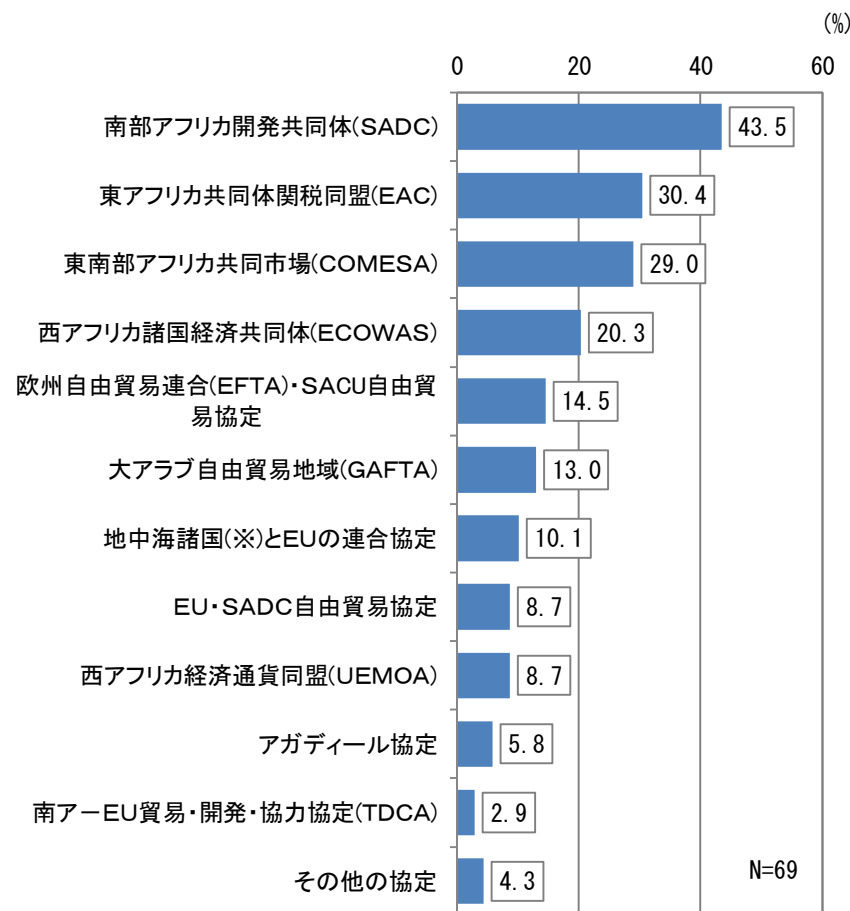
FTA・関税同盟の利用③： 利用している・利用を検討しているFTAの詳細

利用しているFTA・関税同盟（複数回答）



※エジプト、チュニジア、アルジェリア、モロッコ等

利用を検討しているFTA・関税同盟（複数回答）



※エジプト、チュニジア、アルジェリア、モロッコ等

今後の注目国①:ケニア、ナイジェリア、南アフリカ共和国への期待高く

今後の注目国では上位三カ国は前年と同じで、ケニア、ナイジェリア、南アフリカ共和国の順となった。エチオピア（前年7位）やコートジボワール（同10位）、ガーナ（同9位）などが前年から順位を上げた。

N=251

	国名	割合(%)	注目点(企業コメント)
1	ケニア	35.9	東アフリカ唯一の市場、市場規模と安定成長、地熱など発電事業を含むインフラ開発の可能性、日本政府の積極支援、アフリカ開発会議（TICAD）開催で注目度上昇
2	ナイジェリア	31.9	将来的な消費市場の可能性、西アフリカの大国、原油価格回復時の市場の潜在力の高さ、インフラ分野での商機拡大、農業分野の成長余力の大きさ
3	南アフリカ共和国	29.5	社会資本が整ったアフリカ唯一の国、製造業分野の発展可能性、電力を含むインフラ開発の拡大、鉱物資源、アフリカの中でも高い生活水準を維持
4	エチオピア	23.9	人口大国、市場の成長性、人件費の安さ、繊維・縫製産業の成長による商機拡大
5	コートジボワール	21.5	堅調な経済成長、投資環境の良さ（法制度・インフラ整備）、経済復興による商機拡大
6	タンザニア	20.7	エネルギー資源、堅調な経済成長、インフラ分野での商機拡大、市場の成長性
7	モザンビーク	19.1	天然ガス資源、鉄道・港湾・電力などのインフラ需要の伸び、急成長への期待
8	ガーナ	18.3	安定した政治情勢と治安の良さ、石油・ガス産業の潜在力、インフラ需要の拡大
9	アンゴラ	15.9	石油・ガス開発を核とする経済発展の可能性、産業プラント等の建設需要の拡大
10	エジプト	15.1	アラブ圏で最大の人口規模、中間層の台頭、旺盛なインフラ需要、豊富な資源

今後の注目国②：（参考）その他の注目国についての企業コメント

国名	注目点(企業コメント)
ザンビア	農業・特にコーヒー産業、今後の市場拡大、インフラ市場の有望性
モロッコ	仏語圏西アフリカへの進出拠点、自動車市場の拡大、欧州との連携、農業国から工業国への転換
ウガンダ	ケニアの隣国であり統一市場としての将来性、堅調な経済成長、インフラ投資の加速
アルジェリア	資源国、市場の規模・成長性、活発なインフラ投資、欧州に近接した立地
ジンバブエ	農業の潜在力、高い教育レベル、今後の市場拡大、インフラ需要の拡大
コンゴ民主共和国	豊富な天然資源、人口の多さ、市場の潜在力、今後の経済成長への期待
マダガスカル	建設案件の増加、豊富な鉱物資源、今後の市場拡大に期待
カメルーン	産業構造の多様性、経済成長の余力

レポートをご覧いただいた後、アンケート(所要時間:約1分)にご協力ください。

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20160101>



海外調査部 中東アフリカ課
〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル6階
TEL: 03-3582-5180
FAX: 03-3582-5309
E-MAIL: ORH@jetro.go.jp